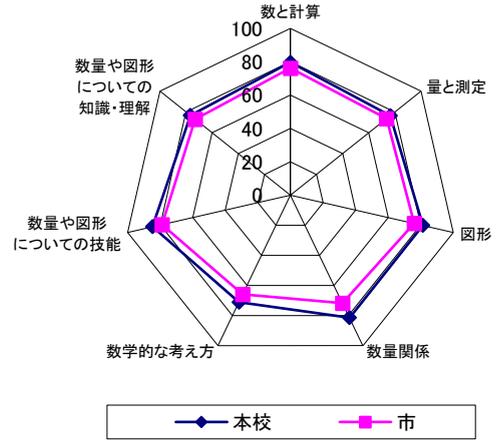


宇都宮市立横川中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	79.7	76.2	72.9
	量と測定	76.4	73.6	70.6
	図形	81.3	76.0	72.1
	数量関係	81.5	71.8	66.9
観点別	数学的な考え方	71.2	65.9	58.0
	数量や図形についての技能	84.8	78.9	76.2
	数量や図形についての知識・理解	76.7	73.1	70.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○校内正答率は79.7%で、市の正答率を3.5ポイント上回った。</p> <p>○特に、分数のかけ算・わり算の問題では校内正答率が9割を超えた。</p> <p>●小数の除法の文章問題を表した図を選ぶ問題の校内正答率は76.2%で、市の正答率より2.6ポイント下回った。</p>	<p>問題場面を的確に捉え、数量の関係を図や数直線や線分図、テープ図などで表して正確に処理することができるように指導をしていく。問題場面から数量の対応関係や大小関係を数直線に表したり、数直線上の基準量に当たる1に対応する数量を問題場面から視覚的に考えたりする数学的活動を取り入れ、重点的に指導していくことが必要である。問題を解く機会を多く設定することで、着実な定着を図ることができるようにしていく。</p>
量と測定	<p>○校内正答率は76.4%で、市の正答率を0.8ポイント上回った。</p> <p>●教室の面積と児童の人数から、1㎡あたりの人数を求める式を選ぶ問題の校内正答率は23.8%で、市の正答率より6.7ポイント下回った。</p>	<p>「単位量あたりの大きさ」の各問題に対し、直線図に表したり、言葉や式で表し自分の言葉で友達に説明したりするなどの数学的活動を積極的に取り入れ、繰り返し復習することで、基礎基本の着実な定着を図るようにする。また、速さや平均をはじめ、様々な問題につなげていくことを意識させるようにする。</p>
図形	<p>○校内正答率は81.3%で、市の正答率を5.3ポイント上回った。特に、正六角形の作図方法から、正三角形の1つの内角の大きさと、正六角形の1つの内角の大きさを求める問題の校内正答率は88.9%で、市の正答率より15.0ポイント上回った。</p> <p>●三角形の3辺の長さを使って、合同な三角形を作図する問題の校内正答率は92.1%で、市の正答率より1.8ポイント下回った。</p>	<p>図形の学習においては、図形の感覚を豊かにし、図形の性質を実感的に理解できるようにすることが大切である。単なる知識としてだけでなく、作図などの数学的活動を通して、図形の性質を実感できるようにしたい。また、立式したり、式の意味を論理的に説明したりする場面を設けることで、重点的に指導していく。</p>
数量関係	<p>○校内正答率は81.5%で、市の正答率を9.7ポイント上回った。</p> <p>○調べた分量と作りたい分量の割合(比)を読み取り、足りない材料の量を求める問題の校内正答率は33.3%であり、市の正答率を3.5ポイント上回った。</p>	<p>割合と比に関して、問題場面を的確に捉え、未知の数量を表すXなどの文字を用いて正確に立式することができるように指導することで、着実な定着を図れるよう指導していく。文字を用いることのよさを味わうことのできる素地を養っておくことも大切である。比に関する問題を繰り返し復習するとともに、問題解決の方法を自分の言葉や式で説明するという活動を多く取り入れていく機会をもつようにする。</p>